

如く答へるべきが當然の筈である。

二

一、俺は労働をすることが愉快だが、働くのだ。

二、俺は働いて人間らしい生活の保障を得るのだ。

三、俺が労働することによつて社会の人が幸福を享けることが出来るからだ。

然し乍ら實際は果してどうか。諸君は何の躊躇もなしに右の如く答へるだけの勇氣があるかどうか。問題は先づ此處から初まる。

第一、實際はどうか

(一) 今日の労働は愉快か

福井博士は其の著『労働經濟論』の中に於て、「労働」といふことを定義して「労働とは苦痛を忍ぶことの費用を提供して、貨銀によりて貰ひ得る利用を得る所の一の經濟行為であります」といひ「苦痛を忍ぶ必要がなければ労働は決して代價たる意味を有たない」と云つて居られる。然しこれは貨銀制度を是認しての説明であるから貨銀制度を否定する私に之つては此の定義は誤つてゐるものといはざるを得ない。

人間は本能的に労働を好む者である。創造を欣ぶ生物である。私達が若し勞働を遮断せられるなれば、それは如何に苦しいものであるかといふ事は、獨房に入れられた囚人が無聊の苦痛に堪へかねて

三